

Design Director Interview

## 進化を続ける「nusign」

2024年にリブランディングされ、deliから独立したブランドに。「New-Design」の響きと理念を掛け合わせた名には、「新しいデザインで価値を生み出す」という情熱が込められている。今後は、日本市場専用アイテムやライフスタイル製品の開発・展開も予定。



nusign  
副代表  
スタンリー・サン

1991年、中国・安徽（あんぎ）省生まれ。上海視覚芸術学院の工業デザイン学科を卒業後、グラフィックデザインへとキャリアを転向。これまで中国国内大手のIT企業やデザイン事務所に所属し、ブランドデザイナー、プロダクトデザイナーとしての経験を積んだ。2024年より、nusignの副代表兼デザインディレクターとして、デザイン部門の統括を行っている。



洒落たニュアンスカラーで、コストパフォーマンスに優れた「クラシックシリーズ」

低価格帯の「クラシックシリーズ」も、優れたデザイン性で人気を集める製品群だ。ジェルインクペンやはさみ、スティックのり、鉛筆削り、消しゴムなど、年代を問わず使用頻度の高いアイテムが揃っている。



「マスターシリーズ」を手がけた  
デザイン界の巨匠、深澤直人さん

世界的なプロダクトデザイナー。数々の国際デザイン賞を受賞し、世界的ブランドのデザインやコンサルティングに携わっている。今回の「マスターシリーズ」のデザインに加え、nusignブランドロゴのブラッシュアップも担当した。



納得の行く造形に辿り着くまで、何度もブラッシュアップを重ねられた。



理想的な造形を実現するべく、ノックなどの一部パーツは構造設計を一から見直し、新たに開発している。

高い技術とデザイン性が生む、妥協なきシンブル。中国の総合文具メーカー「 Deli（デリ） 」が展開する、ハイエンドブランド「 nusign 」。日本の大手文具メーカーのOEM生産で培った技術力を基盤に、人々のクリエイションを刺激する文具やオフィス用品、生活雑貨などを多角的に展開している。大きな強みのひとつが、日本・中国・韓国それぞれに開発・デザインチームを有していること。

盤石な生産体制を誇る中国、潮流をうまく落とし込む韓国、デザインと品質の両面で世界の文具シーンを牽引する日本。『三國三様』の長所を見事に融合させながら、時代に合わせたイノベーションで進化を続けてきた。「どれだけ世の中にデジタルツールが浸透しても、文具は人々の暮らしを彩る必需品。よりおもしろく、高品質で革新的なツールが求め続けられる」と、ブランド副代表を務めるスタンリーさんは文具の真価と可能性を語る。

新たに日本市場へリリースされるのは、クラフトマンシップとコレクション全体の一貫性を極限まで突き詰めた「マスターシリーズ」。ジェルインクペンとノート、ポーチ、ギフトボックスをラインアップしており、いずれも触れる人の感性までをも研ぎ澄まされてくれる造形美が目を見張る。商品デザインやブランドロゴのブラッシュアップを手がけたのは、プロダクトデザイナー・深澤直人さんだ。人の想いを可視化する静かでの力のあるデザインを得意とする深澤さんと、実用性と美しさの両方を追求する nusign。両者のデザイン哲学はピタリと合致し、まるで必然だったかのようにコラボレーションが動き始めた。

しかし、両者の「共鳴」を形にするのは決して容易ではなかった。商品の要となる金型やパッケージデザインをはじめ、細部に至るまで検討・改善を繰り返す中、シリーズ構想から実現までには2年以上の歳月を要したという。開発にあたり深澤さんの徹底したこだわりと幾度となく驚かされたといい、その一例がジェルインクペンの内部機構である。クリップとボディを一体化させるためにノック機構のスペースを削った結果、標準サイズのノック機構が収まらなくなっていたのだ。ただ、妥協の選択肢はない——状況を打破するため、開発チームはより小さなマイクロ・ノック機構を一から

生み出した。その後もポーチのマグネット、ノートのゴムバンドの位置、ギフトボックスの色調や肌触りなど、数えきれぬハイドルを乗り越えて納得いくデザインへと昇華していった。「日本には上質な文具が多く、ユーザーの感度も高い。単なる企業と消費者という関係性ではなく、アドバイスや刺激を与え合う「友達」のような関係を構築できた」とスタンリーさん。本当に良い文具は、国を越えて呼応する「力」を秘めている。「マスターシリーズ」も、日本において人々の創造力、感情の源泉となってくれるに違いない。

## 機能とデザインを研ぎ澄ました「マスターシリーズ」が上陸



PICKUP BRAND

ニューサイン

# nusign

心地良い筆記感のペンとノート、ミニマルなポーチ、喜びを増幅させるギフトボックス。

2026年6月、nusignの「マスターシリーズ」が海を越えて日本へとやって来る。世界的デザイナー・深澤直人さんとともに引き出した、「究極の造形美」に迫っていく。

## Master Series Notebook

マスターシリーズ ノート

視覚的なバランスを整えるため、あえて端ではなく中央に配されたゴムバンドがアクセントに。ノートの小口に表紙カバーと同色の吹き付け塗装を施すことで、「360度」どこから見ても洗練された印象に仕上げた。高品質なオリジナル紙は万年筆でもじみや裏抜けが少なく、スルスルとした快適な筆記感を叶えている。

ノート：セミB6・192ページ・8mm横罫・税込4,950円



グレー



クリームホワイト



ブラック



ノートに採用されている紙は、ペンのジャンルを問わず筆記しやすい。左の写真は万年筆で紙面を塗り潰した様子。裏抜けの少なさが分かる。



小口の吹き付け塗装が、視覚的な統一感を演出するカギ。無造作に並べた姿すら美しく様になる。



裏表紙にはポケットを搭載。一筆箋や付箋、小さなカードや名刺などを保管するのにちょうど良い。



ゴムバンドにはポーチをセットできる。マスターシリーズの製品同士で組み合わせ使用できる点も魅力だ。



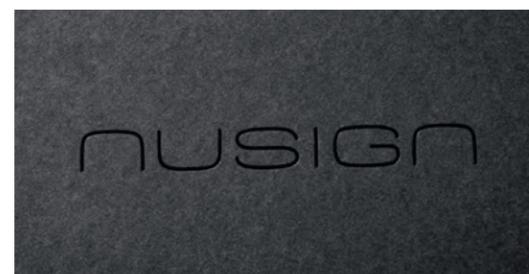
グレー

## Master Series Gift Box

マスターシリーズ ギフトボックス

ジェルインクペン、ポーチ、ノートが美しく収められたセット。何より深澤さんが追求したのは、理想的な“黒”のトーンだ。色味や明度、彩度はもちろん、言語化しづらい肌触りや見る角度に応じた色の変化にまでとことんこだわった。国を跨いで何十回もサンプルを郵送し合いながら、研究を重ねたという開発秘話も。

ギフトボックス：約213W×283Hmm・税込8,800円



外箱の紙の質感や、ブランドロゴの箔押しは黒さも深澤さんのこだわりポイント。自分用にはもちろん、センスが光るギフトとしても最適だ。



原寸大

ペン先に金属パーツを埋め込んだのち、ネジロを固定する特殊構造を採用。このパーツにより、重心のバランスを取っている。

自社開発したG2規格の円錐状コーンリフィル。現在は黒色のみの展開だが、今後は他のカラーの追加も予定している。単体でも販売する予定（価格未定）。

グレー

Master Series Lineup

## ミニマル×シンプルな造形美

nusignと深澤さん、双方のクラフトマンシップを集約し、コレクションの一貫性を突き詰めたアイテムたち。どの色を組み合わせても自然になじむニュアンスカラーで、ユーザーの個性や好みにも応えられる。デザイン哲学が光るディテールにクローズアップしていこう。

## Master Series Gel Pen

マスターシリーズ ジェルインクペン

同シリーズ1作目である「ジェルインクペン」。中国における一般的な筆記具の開発期間を大きく超える、2年超の歳月をかけて作られた。傑出する流線美は「モノコック構造」と呼ばれる一体成形によるもの。シンプルな見た目とは裏腹に、握り心地からインクフロー、静かに指先に届くノック音まで、徹底したこだわりが散りばめられている。

ボールペン：収納時約146mm・胴軸径約12.1mm・重量約12.5g・ノック式・ボール径0.5mm・税込1,320円



美しくびれのある流線型のボディを際立たせる、シームレスなクリップ。ペンの成形は改良を重ね、パーティングライン（継ぎ目）も最小限に。



手になじむ、丸みを帯びた三角形の胴軸。自然と指の位置に沿うことで、しっかりとペンをホールドできる。

専門の研究チームが開発した自社オリジナルインク。なめらかさと適度な抵抗感を両立した、絶妙な書き味。

## Master Series Pouch

マスターシリーズ ポーチ

軽量で手入れしやすいポリウレタンの合成皮革を採用したポーチは、一枚の素材を折り畳んだ無駄のないデザインが秀逸。とりわけこだわったのはマグネット式の開閉部。理想の操作感を求め、さまざまなサンプルで検証を重ねられた。がたつきがなく、スムーズに吸着する感覚が心地良い。両開き構造で実用性も抜群だ。

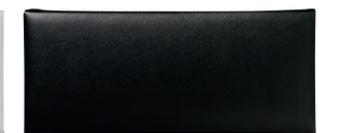
ポーチ：約175W×75Hmm・税込4,400円



持ち運びやすいサイズ感のポーチは、ペンや定規といった文具だけでなく、ちょっとした小物やガジェットもすっぽり。「こんな風にメガネを入れるのもおすすめです」とスタンリーさん。



グレー



ブラック



クリームホワイト